



戦時下における「慈悲」

ロシアとウクライナ

第3次ウクライナ訪問から10月7日に帰宅。ギョルギ教授(Georgiy Serdechnyy)は、1ヵ月半にわたるロシア軍の支配によるイルピンの惨状を私たちに案内し、説明した。10月10日、続け様に国際電話が入った。「停電だ」「爆撃の音、硝煙が見えるから画像を送る」「イルピンは今のところだいじょうぶ」と。8日に爆発があったロシア支配下の「クリミア橋」に対する報復であった。その前の週、首都キーウは安全と言われていただけに、衝撃であった。

神戸国際支縁機構は、国内外で、孤児、戦争や被災により夫をなくした独身女性、難民支縁に携わっている。動機は「慈悲」※の心である。帰国した7日、ノーベル平和賞受賞発表を記者たちと「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」(略称 推す会)は見守った。受賞者は、3つのグループである。イルピン、プチャでのロシア軍の犠牲になった市民の記録などに携わっているウクライナの人権団体

散させられた「メモリアル」というグループである。難民支縁を行ってきた。ロシアには、ロシア正教会のボランテニア・グループ「ミロセルディエ」(慈悲)が活発に難民の世話をしている。なぜなら2月24日以降、ウクライナからロシアに約350万人が避難したこと共感せざるを得ないからである。ロシアの「ミロセルディエ」はさまざまな社会の痛み・苦難・悲嘆に関わってきた。

※「慈悲」とは、「他者が幸福(楽)になりますように(幸福に焦点)」と願う。「悲」とは、「他者が苦しみから離れますように(苦しみに焦点)」と望む思い。

ロシアの「ミロセルディエ」と聞くと、孤児、夫をなくした独身女性、貧民のために活動したキリストの「ミゼリコルディア」(ポルトガル語「慈悲」)の組を思い出す。大分市で日本最初の病院も「ミゼリコルディア」のひとつである。ルイス・デ・アルメイダは1557年に、日本初の西洋式病院を建てた。今も、「ミゼリコル

「市民自由センター」(CC L)、他に、ベラルーシで人権を擁護する活動家、もうひとつはロシアのプーチン政権から解

「ミゼリコルディア」の碑が長崎にある。ミゼリコルディアの事業は1614年に徳川家康が発布したキリシタン禁令によって宣教師の追放と教会破壊が行われた後も社会的弱者に仕えていた。

プーチンに横やりが入れられても、良心者はウクライナ、アフガニスタン、シリアなどからの難民の世話を継続している。

ヨーロッパには正教会(ロシア・ウクライナ)、ローマ・カトリック教会(非英語圏)、プロテスタント教会(英国・米国の英語圏)の3つのキリスト教圏がある。日本人が想像できないほど、宗教は影響力がある。しかし、政教補完の構図ゆえに、教会が国に大義名分を与えなければ戦争にはならない。権力側は慈悲がない。ウクライナで案内した教授はトルストイの絶対非戦の立場であった。「あなたがたの父が慈しみ深いように、あなたがたも慈しみ深い者とならなさい」(ルカ 6・36)『聖書協会共同訳』と祈りながら、ウクライナ、ロシアの非戦論者とスクラムを組んで、孤児、夫をなくした独身女性、難民を世話していきたい。

「市民自由センター」(CC L)、他に、ベラルーシで人権を擁護する活動家、もうひとつはロシアのプーチン政権から解



イルピンのオレクサンドル・マルクシン市長 2022年10月3日



『中外日報』(2022年9月16日付)



『カトリック新聞』(2022年9月25日)

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

Otsuka
株式会社 大塚製薬工場
〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
TEL 088-685-1151(代表)

MIYOSHI
ミヨシ石鹸株式会社
〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA
竹中工務店
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

第31次球磨川（熊本豪雨）ボランティア

事務局 堀 浩一

熊本県球磨郡相良村で、2回目の稲刈り、天日干し、脱穀にとり組んだ。田んぼは黄金色の稲穂で実っていた。稲刈りは、10月11日、神戸からの6名で晴れの下、実施した。収穫に年長組の園児たち（5〜6歳）と共に汗を流した。友田謙吾&町子ご夫妻から寛大に借りている田である。山下幸俊さんが提供したくださった「稲架掛け」用の竹、木が役立っている。丸目寧さん宅に置かせていただいている。水質が最も良好な河川に「川辺川」が16年連続で選ばれている。清流の川辺川の水によって育った無農薬、有機の「ヒノヒカリ」で「復幸米」が育っている。2年前浸水被害を受けたなつめ保育園（1958年開園相良村大字深水地区）の園児たちはのこまでサクッと刈っていく。「稲架掛け」に届かないと、教師たちに抱っこしてもらって「天日干し」にも挑戦した。

住民が反対している川辺ダムを国交省は、蒲島郁夫熊本県知事を動かして強行する。穴あきダムもヘドロがたまり、日本一の清流である川辺川の環境を破壊する。子守歌で有名な五木村の役場を訪問した。五木ダム、道路さえできれば過疎、高齢少子化の活性化するという国交省の住民説明会はどうそだとはっきりした。6千人いた村は今や千人に減ってしまった。住民は川辺ダム建設について「お上」の変遷に翻弄されてきた。五木村役場で五木住民の苦悩を受け止める木下丈二村長（左側）にお会いした。

熊本日日新聞 2022年10月13日

相良村 ●園児が稲刈り体験 11日、川辺で地元のなつめ保育園の園児24



人が体験した一写真。20年熊本豪雨の復興支援をする神戸市の一般社団法人「神戸国際支援機構」が企画する米作りの一環で昨年に続き2回目。森田遥翔くん（6）は「うまく刈れて楽しかった」と笑顔だった。刈り取った稲は来月脱穀して園児に配布するほか収穫祭で地域住民にも振る舞う。

『熊本日日新聞』（2022年10月13日付）

人吉新聞 2022年(令和4年)10月13日

園児参加し「復幸米」収穫 来月脱穀作業



稲刈りを笑顔で園児

園児たちは稲刈りに参加し、稲刈り体験をした。稲刈り体験は、園児たちにとって初めての経験で、大変楽しかった。稲刈り体験は、園児たちにとって初めての経験で、大変楽しかった。稲刈り体験は、園児たちにとって初めての経験で、大変楽しかった。

『人吉新聞』（2022年10月13日付）



滋賀県長浜市水害 丹生（にう）ダム建設予定地

水害ボランティア

2022年8月4日～

8月5日（金）、北陸道を経て、第2次新潟県村上災害に向かう途中、滋賀県長浜にさしかかった。木之本インターチェンジ（IC、滋賀県長浜市）―敦賀IC（福井県敦賀市）通行止め。やむなく一般道に。そこは丹生ダム建設が中止になった地域である。神戸の水道水に係る淀川水系の最北部であり、川幅がわずか2メートルに過ぎない高時川が暴れた。午前7時の時点では、警戒するほどではないのに、午前9時過ぎにはみるみるうちに増量した。雨量は20、30ミリにすぎなかったと高橋敏治（72歳）さんは語った。2600世帯に避難指示。6日（土）に、各地区に支援物資をもって訪問した。

丹生ダムがあったならば助かったという声と、ダム中止になったものの国交省は道路整備をしなかったのが原因という声があった。まるで2年前の球磨川（熊本豪雨）と同じ対立構図がある。いずれにしても人災と言えよう。



取材を受けた『中日新聞』（2022年8月7日付）

31年ぶり、ゼロから翻訳した新しい聖書

『聖書 聖書協会共同訳』
—2018年12月発行—

全国書店にて好評発売中です
www.bible.or.jp
日本聖書協会



湯川胃腸病院

胃腸科・小児科・泌尿科・皮膚科・眼科・耳鼻科・歯科・整形外科・放射線科・検査科・薬剤科・理学療法科・作業療法科・言語聴覚科・看護科・医療事務科・栄養科・社会福祉科・健康増進科・予防科・健康相談科・健康診断科・健康チェック科・健康チェックセンター

〒543-0033 大阪府天王寺区堂ヶ芝2丁目10番2号
TEL:06-6771-4861 FAX:06-6771-4882

人によし、社会によし、未来によし。

ミヨシ油脂株式会社

〒124-8510 東京都葛飾区堀切4-66-1
http://www.miyoshi-yushi.co.jp

KINSAN 夢に近づき 夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター
0120-111-019

11 回目の稲刈り

第 135 次東北ボランティア

代表 村上裕隆

最大級の台風14号の影響で、石巻市の小中学校、幼稚園は休校。先月の11号の時も、佐賀県に居合わせたのが、台風上陸は空振りだった。水害、土砂崩れ、道路などの一部の被害は、台風というより、河川、森林、道路などの管理ずさんさが原因と言えないだろうか。気象庁はそんな国交省の傘下にある。

秋晴れの中、長浜幼稚園の園児たちがトロトロ層づくり、田植えた無農薬、有機の「復幸米」の稲刈り。田圃所有者の亀山繁さん、石巻地区森林組合（大内伸之理事長）の協力により、「稲架掛け」に次々にずっしり重くなった稲を竹にぶら下

げる。天日干しである。日中太陽があたり、夜霜が稲穂にミネラルを供給し、おいしい「ヒトメボレ」ができる。田んぼと田圃は異なる。後者は無農薬、有機である。

赤とんぼが飛び、秋らしく風情が漂ってきた。曆に従った伝統的な行事、祭り、お彼岸も忘れがちになっている。しかし、先祖があつて、現在の私たちがいること。農ボランティアをしていると骨身にしみる。楽をする生き方を追い求めるのではなく、自作自農、霞堤、木造の高層建造物などにより、災害に強い日本に復興してほしい。

五百井正浩理事の依頼のおかげで福島県南相馬市真宗大谷派東本願寺を再訪問。木ノ下秀俊先生が案内、子どもの時、被災当時、浪江町、富岡町などの福島第一原発事

故の地獄体験、だれも責任をとらず、今なおまったく立ち直っていない現状に慄然とする。一人も住んでいない富岡町で、西願寺の再建を願う吉田信住職が国、環境省の横暴さに立腹。放射能除染駆除も遅々として進んでいない。いわきの原子力災害考証館里美喜生館長は「復興」を禁句と語る。なぜなら元には戻らないから。放射能汚染水の放流がいかに自然を破壊するかの地域の悲鳴を聞く。汚染水をタンカーで東京湾に持って行かない限り、政治、官僚、電力会社の横暴さを止められないと迫る。



『社説新聞』（2022年9月30日付）



『石巻日新聞』（2022年9月28日付）

『真平家物語』五家荘の先祖（第五回）

熊本県球磨郡相良村教育長 緒方 俊一郎

さて山賊に囲まれた清経一行はどうなったであろうか。気になるところであるが、ここで話を少し前に戻して緒方三郎惟義（維義）の先祖について紹介しよう。平家物語字環の段に次のように記されている。

昔、豊後の国の山里に女がいた。未婚の一人の娘のところにある男が夜な夜な通い、年月が経つうちに女は身ごもった。母親が怪しんで「おまえのところへ通っているのは何者か」と尋ねたところ、「来るところは見るけれども、帰るところを見たことがありません」という。「では帰ろうとするとき、印をつけよ」と教えた。娘は母の教えに違ひ、朝になって男が帰ろうとするとき、水色の狩衣の襟に「しずの字環（おだまき）」というものをつけた。糸を頼りに男の行方を辿って行くと、豊後の国と日向の境、優婆塞（うわさく）という高い山の裾にある大きな岩屋の内へと繋がっていた。

女が岩屋の入口にたずんで耳を澄ますと、大きな声で唸っている。「お姿を見たくて、私はここまでやってきました」と言う。「おれは今、人の姿をしていない。おまえがおれの姿を見たら、気を失ってしまうぞ、身ごもったのは男の子だ。弓矢を持たせれば、九州・壱岐・対馬に並ぶものない男になる」と教えた。女が重ねて「たとえどのような姿でも、日頃のよしみをどうして忘れられましよう。姿を見せて下さい。」という。「それなら」と岩屋の奥から、とぐろを巻いた姿は五六尺ほど、伸びれば十四・五丈（50メートル近く）もあるかと思える大蛇が身をくねらせて這い出てきた。女は気を失いそうになり、連れてきた十人余りの従者たちは絶叫して逃げてしまった。襟にさしたと思った針は、大蛇の喉笛に突き立てていたのだった。女が帰って程なく産んだ子は男子であった。母方の祖父が育てたところ、まだ十歳にも満たないのに背は高く顔も長かった。7歳で元服させ、祖父を大太夫というので名前を大太と名づけた。夏も冬も手足にはびっしりとあかぎれが出来てひび割れていたの、あかがり大太といった。

かの（緒方）維義はこの大太の五代の孫に当る。恐ろしい者の子孫だからか、国司の仰せを院宣（後白河法皇の命令）として、九州・壱岐・対馬に回覧状を回すと、有力な者たちが皆維義に従った。

その大蛇は日向の国において崇められ、今、高千穂の明神の神体であるという。

緒方惟義の娘婿となつて名前を緒方清国と改めた平清経が源氏の追討から逃れて九州山地を南下して行った。



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

Humanity First

「ヒューマンティファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会弁護士法人
芦屋西宮市民法律事務所

津久井 進

日弁連災害復興支援委員会委員長
兵庫県弁護士会前会長

TEL: 0798-68-3161

ミヨシ共栄株式会社

東京都墨田区緑3丁目8番12号

事務局便り

事務局長 本田寿久



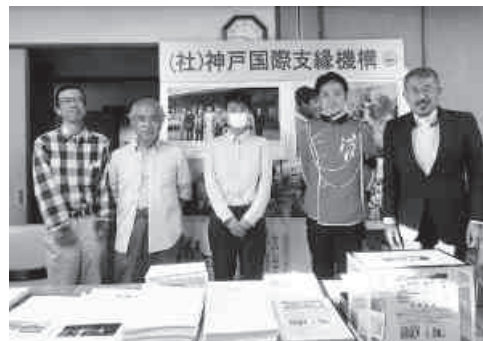
丹波水害（2014年）以降の定例秋の炊き出し
兵庫県丹波市市島 2022年10月16日

いのり☆フェスティバル 2022 京都

2022年10月15日（土）

1:00 PM - 5:00 PM

主催 キリスト新聞社



右から岩村義雄、松谷信司編集長、佐々木美和、堀 浩一、村上裕隆

(一社) 神戸国際支縁機構

ボランティアや移住者募集中

農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。

被災地への支縁物資もお願いします。

年会費をお願いします。(月に200円)

会員（年度4月～翌3月）の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

海外の孤児のために支縁金をお願いします。

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

郵便振替

口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

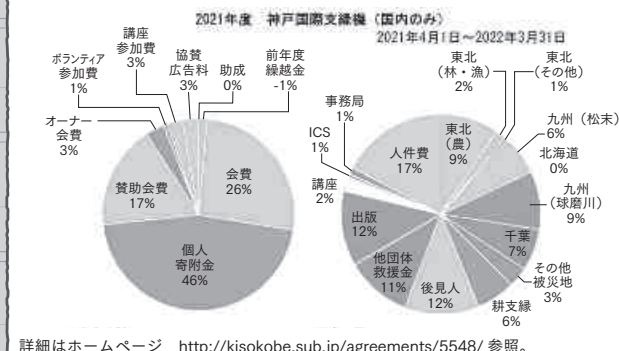
三菱UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には必ず『国名』を書き添えてください。

2021 年度会計報告



本田哲郎セミナー

毎月第3金曜日

午前10時～

神戸学生・青年センター

本館1階

岩村義雄セミナー

毎月最終月曜日

午後6時半～

ミント神戸17階

告知

- 『福音と世界』誌(12月号)に、岩村義雄理事長の「川と人間の相克と共生」。
- 2022年11月17日岩村義雄理事長は関西学院大学商学部でウクライナ報告。

編集後記

毎月、九州と東北ボランティアに参加している。男性は車中泊、女性の佐々木美和（「カヨ子基金」代表）と、岩本真由子さん（大阪大学大学院生）は、10月も松屋温泉ビジネスホテルに宿泊。その天然温泉は蛇口から出る湯もすべて温泉であり、ボランティアの疲れをいやしてくれる。日本一の清流の川辺川の水で育った「復幸米」の稲刈り、天日干しに仕えた。鳥越肖男社長は震災後、被災者に部屋を避難所に開放した立派な方である。乙石川沿いの独居の井出洋子（92歳）さん、大町町の今村佳代子（81歳）さん、松本の梶原ミドリ（82歳）さんなどと毎月お会いするのも楽しみである。

田園では、周囲の草を刈る作業はだれにも負けない自信がある。稲刈り後、緒方俊一郎先生は見るに見かねて針治療をしてくださった。すると杖なしに歩けるようになった。神様は生きておられる。

事務局 野田健二

救援金、維持会費ご協力を感謝します。

(敬称略)

2022年7月17日～10月15日

佐々木美和、岩村義雄、神戸国際キリスト教会、さかいようこ、沖浦宏隆（千葉県布良）(3)、小笠原貞夫、星野尚子、酒巻美和子、モリユリ・ミュージック・ミニストリーズ、神戸聖福音教会、李敬淑、合同会社 Bless 泉 真姫、野田健二 (2)、日本基督教団鷹取教会、土手ゆき子、土手 朋、水谷弥生、三木晴雄、藤丸秀浄（法専寺住職）(2)、(有) 本田商会、本田寿久、神納茂子、日本自由メソヂスト葛城キリスト教会、玉の肌石岐株式会社、鄭 恵姫、的野慶子、大島健二郎 (3)、石井万紀子、大野祐祐、嶋田博信&礼子（千葉県布良）、島田 徹、小島千鶴、藤野知香、若宮紀章、田中基康（兵庫県人事委員長）、水垣渉、水垣兼子、白方誠彌、伊藤直樹、伊藤ヨシ子（茨城県日光市）、岩間 洋、岩間千恵子、千田豊穂（宮城県石巻市光蔵寺住職）、笠原美恵子、石井泰代、日本バプテスト同盟西岡本キリスト教会、保田 薫、巢山洋、大友秋彦（子どもと教科書全国ネット21）、島田信一&安子、久保田弘人（熊本県人吉市釜田醸造所）、菅原千春、保田 茂、ピンヨミン・エデリー（ユダヤ教日本首席ラビ）、相浦恵子、庄司慈明（宮城県石巻）、坂井純人、東原良学 (2)、秋田喜代子、阿部和夫&斉子（宮城県石巻）、西上千栄子 (5)、大嶋善直（神戸フィラデルフィア教会前牧師）、守屋香代子、塩川成子（千葉県館山市）、平井一嘉、村上安世、竹内喜子、明石バプテスト・キリスト教会、小坂田さち子 (2)、大野克美、千葉幸一（宮城県石巻市）(2)、廣瀬素子 (3)、植松智明、名田洋子、大阪大学人間科学研究科、武田多美 (2)、徳留由美、辻 良雄、西神ニュータウン9条の会、姫田光義、湯川紘太、中山圭子 (2)、梶原将嗣（福岡県松本）、(株) 大塚製薬工場、日野謙一、村田義人、高 祐二、「小さくされた人々」講座 (2)、有田貞一&美栄子 (2)、太田妙子、今村佳代子（佐賀県大町町）、森川八郎、木野友義、「みんなで考える9条・明舞の会」、山下妙子 (2)、宮本要太郎、ウクライナ・サポート・チーム、鳥岡正成、高田康夫、小川昭三、中村清雅、辻本久夫、石川久子、白瀬悦子、櫻井由里子、吉持志保、高島邦夫、大槻良文、森 祐理、青木、古川直子&和子、いのり☆フェスティバル in 京都、匿名。

776,420 円

フードバンク関西、松井美男 & 伊都子から觀賞魚、大島 修、大島敏子、石井久雄、本田寿久から桃、Ruslan, Sunee Bhs からロティ、西上千栄子からチョコレート、阿部とよ子（宮城県石巻支所）からリポビタミン、丹野恵子（宮城県石巻市）から海苔 (3)、佐藤金一郎&晴美（宮城県渡波）からフルーツ詰め合わせなど、梶原ミドリ（福岡県松本）から梅干しなど、出井洋子（福岡県松本）から小物など、鳥越肖男（熊本県人吉市）から入浴券 (2)、本田巧&敏子（宮城県石巻市）から海苔、(株) チュチュアンナから靴下、Leonid Bulavin から書籍など、樋口喜寿江（福岡県松本）から小物入れ。山内満千子（熊本県相良）から食材、「安房文化遺産フォーラム」から菓子、平塚宏行&淳子（宮城県渡波）から海苔、黒川菊栄（千葉県布良）から果物。